

救急外来受診の手引き(10)

—動物による外傷—

公立世羅中央病院 院長 末廣 眞一

5月頃よりいろいろな動物の活動が活発となり、特に繁殖期を迎える初夏には攻撃性も高まり、被害件数もピークに達します。今回はこうした動物による傷害について、時間外受診の必要性も含めて解説します。

マムシ咬傷

7月から9月にかけてマムシに咬まれる人が多くなりますが、マムシに咬まれて毒が入った場合には数分で局所が腫れてきます。咬まれても毒が入らない場合も少なからず(約25%)ありますので、局所が腫れてこないときには救急外来を受診する必要はありません。マムシ以外の日本の蛇では、沖繩に生息するハブを除いて、咬まれても腫れてきません。マムシ毒は出血毒であり、凝固障害や腎不全、横紋筋壊死などを引き起こし、死に至ることもあります。日



本全国では年間10数人の方が咬まれて合併症を起こし、亡くなっています。

マムシに咬まれた場合は手や足の中枢側を軽く圧迫して、咬傷部は清潔にして受診してください。あまり

きつく圧迫すると動脈の血行が悪くなり、筋組織の壊死を起こしやすくなります。病院では局所が腫れてマムシの毒が入ったと判断できれば、基本的には抗血清を注射します。マムシ毒抗血清は咬まれて6時間以内に注射しなければ効果がありません。病院ではなるべく入院していただき、抗生物質などの点滴をしながら、4〜5日経過観察することになります。

蜂刺傷

日本ではスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチなどが人を刺します。動物による傷害が原因の死亡数は、

蜂によるものが第1位で、毎年40人程度が亡くなっています。スズメバチは攻撃性が高く、興奮するとフェロモンを出して仲間を呼び集めますので、10箇所以上刺されて来院する人も稀ではありません。7月から10月が繁殖期で、攻撃性も高く、被害も多いようです。ハチ毒は痛みを惹起するアミン類のほかにシヨック症状を引き起こす酵素類が含まれており、気分が悪くなった場合にはできるだけ早く救急車を要請することが必要です。

ムカデ咬傷

ムカデは蜂に比べるとおとなしい生物で、自分から攻撃することはあ



まりありません。ムカデに咬まれると激しい痛みを感じますが、毒の方は体内に注入されるわけではなく、咬まれた人の皮膚に付着しているものです。毒はタンパク質でできておりますので、熱に弱く、咬まれたときの対処は43度くらいの温水で洗流すのがよいとされています。温水で洗うだけで痛みも消失します。毒が口の中に入ると口内炎の原因になりますので、決して口で吸い出すようなことはしないでください。基本的には救急外来を受診する必要はありません。稀ではありますが、アレルギー症状を起こすこともありますので、気分不良などの症状がある場合は時間外でも受診してください。